

## 40 最近の生活訓練課の取組みについて ～主に重度の重複障害を持つ方への対応～

更生訓練所 指導部生活訓練課 三好尉史 山添秀次 渡邊明夫 河野智子 鈴木克子  
会田孝行 森 公士朗 石森伸吾 松橋次郎 一居伸幸  
嶋田由希 福田妃佐子

### はじめに

生活訓練課は、当センター開設以来、主に身体障害者手帳の交付を受けた視覚に障害をもつ方を対象に、歩行、日常、コミュニケーション等の訓練を実施してきた。

しかし、近年はケアマネジメントの手法を取り入れた支援方法を実施、対象も肢体不自由の方、聴覚に障害をもつ方、重度の重複障害をもつ方の訓練にも積極的に取り組み、従来の枠組みにとられないサービスを提供するよう努力している。

今回、あらためて最近の生活訓練課の取り組みを紹介することで、これまで以上に他部門とサービスを相互活用し、利用者主体のサービスを提供できるようにしたいと考えている。

### 最近の取り組み

- 1 重度の重複障害をもつ方の生活訓練
  - (1) トウレット症候群＋自閉症＋知的障害＋視覚障害
  - (2) 急性散在性脳脊髄炎による両下肢麻痺＋視覚障害（2例）
  - (3) 網膜色素変性症による視覚障害＋聴覚障害
- 2 当センター病院患者の生活訓練
  - (1) 脳性麻痺による痙性四肢麻痺＋視覚障害＋知的障害
- 3 一般リハビリテーション課程入所者の生活訓練
  - (1) 身辺管理等基本的な生活習慣確立を目標にした訓練
  - (2) 手話訓練、学習支援を目標にした訓練
  - (3) 高次脳機能障害
- 4 他部門の協力
  - (1) 運動療法士による体育の実施
  - (2) 栄養士による調理訓練、栄養指導・支援の実施
  - (3) 理療教育部教官による教養の時間の実施

### まとめ

最近、重度の重複障害をもつ方の受入れが続き、生活訓練課程以外の利用者の生活訓練に対するニーズが高まっている。その多くはこれまでの支援方法では対応できなかったものが多い。生活訓練課程の枠組みにとられず、利用者のニーズに対して支援方法を柔軟に考え、実践することができれば、当センター生活訓練課程の役割は今後ますます重要になってくると考えている。

今回の報告を機に、サービスの相互利用をさらに進め、利用者に対するサービスの質が少しでも向上するよう引き続き努力したい。